

*「九条の会・きしわだ」ニュースへの
投稿をお待ちしています。



九条の会 全国交流集会
2006年6月10日

「九条の会」全国交流集会ひらかれる

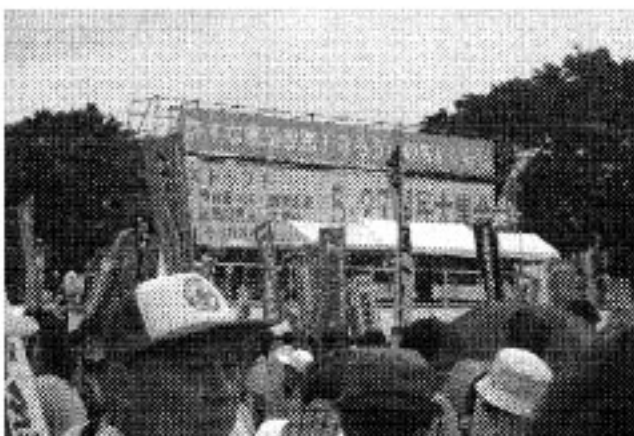
2004年6月10日に、作家の大江健三郎氏ら各界の著名人9人が呼びかけて始まった「九条の会」の、初めての全国交流集会が6月10日、初めて開かれた。

「始めの頃は、もう二度と戦争の苦しさや若い人たちに味あわせたくない」ということから、30歳になる年寄りが申し上げるのですから聞いてください。平和というものが世界にとれほど必要なものか。

「私の子どもの頃、政府は『戦争は文明の母である』という小冊子を出しました。米国は文明の名において日本の戦争を裁き、今はイラクに戦争を仕掛けています。二つの国家の文明に取り残された一人のもうろくの個人として戦争に反対します。文明の先達国から二個の原爆を落とされた日本人として、その記憶を大切に、戦争を起す文明に対し、もうろく人として

「私たちが希望を持たなければ一日たりとも生きていきません。希望を持ちつづけることが困難な時代だから、いっそう希望を高く掲げて、そして、市民たちがそれぞれの地域や職場において、憲法九条を守る努力を続けておられる。それが日に日に増えている。この市民の力、気持ちの結び合いの中から、私たちの新しい知恵も生まれてくるに違いない。いま私たちは新しいあけぼのにいるのかも知れません。」

「9条を守ってください」署名 4817筆 国会に届けました



代々木公園に五万人が集まりました(上)
大阪で集約されたたんざんさん(中)
大著名は、大阪で集約されたたんざんさん(中)
大著名が代表しての殿田さんに手渡し(中)
上京回は盛り込みも(下)



「海外で戦」
「憲法9条を守ろう」
「平和な日本を、子ども達に残したい。大人の責任で。」

「憲法・教育基本法改悪、国民投票法案、医療改悪、共謀罪など国民のためにならない法律をみんなの力でとめましょう。」
「平和な日本を、子ども達に残したい。大人の責任で。」
力がわき出る2日間でした。
(T・A)

5月26日午前7時30分発東京行きの新幹線に乗りました。靴の中には、みんなで集めた「9条を守ってください」の署名が入っています。
東京駅は、大きくて、ややこしい。地下鉄も複雑。国会に到着。参議院前には座り込みの

人がいっぱい。「教育基本法」改悪反対ののぼり、横断幕。大阪から行った人達と「憲法九条を守ろう」の横断幕を掲げた。その前に全国から集まった署名を積み上げていきました。三十九万四千二百三十筆。大阪から十一万筆。岸和田から四千八

百十七筆を提出しました。殿田衆議院議員が「憲法を変えようとする動きが急変している。戦争する国づくり、教育基本法を変えて『人づくり』、国防省への格上げ、運動を阻止するために『共謀罪』。今日の取り組みを明日へ、地域へと大きく広げるためにがんばりましょう」と挨拶しました。最初の第一歩、テンポを上げてがんばらなくては、と心をひきしめました。

議員への面会手続き、用紙に書いて提出し、議員が会ってくるか、係りの方が電話で確認、セキユリティーチェックを受けてやつと議員会館の中に入りました。私は、大阪出身の議員7人を回りました。十七区選出の議員秘書は、あまりいい顔をしなかつたのですが、「女性の立場から、子どもを戦争に行かせないようがんばってほしい。」と話す、「先生に伝えます」と、少しやさしくなりました。十八区選出の議員秘書は、話を聞こうとしませんでした。「うちの先生はがんばっています」といって、追い返されました。国会が会期中でしたので、すべて秘書の対応でしたが、話がよく聞いて、「先生につたえます」と言っていました。

知恵を出し合い、できる事から 全国で「九条の会」 五一七四

て来たのではなく、自ら参加した人ばかり。

呼びかけ人6氏の挨拶で特に印象に残ったこと。

「私が見え隠れさん」
「私が見え隠れさん」

「私たちが希望を持たなければ一日たりとも生きていきません。希望を持ちつづけることが困難な時代だから、いっそう希望を高く掲げて、そして、市民たちがそれぞれの地域や職場において、憲法九条を守る努力を続けておられる。それが日に日に増えている。この市民の力、気持ちの結び合いの中から、私たちの新しい知恵も生まれてくるに違いない。いま私たちは新しいあけぼのにいるのかも知れません。」

加藤周一さん

「日本は憲法九条を中心にして分かれ道に差しかかっている。一方は戦争、もう一方は平和の道です。戦争は国全体を巻き込む事業ですから、言論の自由とか、人権は抑えつけられ、後退します。教育も統制が強くなります。『九条の会』をつくったときに、特徴が二つありました。一つは国民の意見と議会の意見が違ふということ、議院の中で憲法改正が多数だけど、国民の中では全然多数じゃない。もう一つは、市民運動が盛んだけど、横の連絡がない、それに役立ちたい。『九条の会』は上り坂です。勢いのある運動が勝ちます。押して押していけば勝つ可能性がります。』

小田実さん

「もつとも理想的であることが、もつとも現実的であることを考えたい。いま昔に帰れ式の改憲論は影をひそめつつあります。逆に戦争の反省にたつてすすめるという物分りのいい議論が出ています。九条の一項はそのままにして、第二項をやめようという。いまでも勝手な行動をしている自衛隊を軍隊と認めたらもつと勝手な行動をするのではないかと考えるのがリアリストです。非暴力の世界に向けて一歩でもすすめることが、日本を守ることになるのです。」

大江健三郎さん

「憲法、教育基本法を読み返してみると、マッカーサー司令部や旧支配層の思想があったとしても、それを自分のものとして受け入れた当時の日本人には倫理的想像力があつたと思えます。『この憲法の理想は、根本において教育の力

に待つべきものである』という教育基本法の文章には、これからの国の回復、人間の回復をはかる子どもへのおそれと祈りが込められています。政府・与党の教育基本法案には『教育の力』という言葉は現れません。今日は、独立した多様な声の重なり、憲法擁護のためさまざまな運動が重なって、このような大きな結実を示していることを心から喜んでいきます。憲法九条をいかに守るかを考えることを続け、この運動にあわせて少しずつ声を発していきたいと思えます。」

小森陽一さん（九条の会事務局長）
「9人のアピールを一字一句正確に伝え、賛同者を過半数に広げていきたいと思います。勝つためにどうするか、だけに脳を使いましょ。この運動は世界の現実をみすえた運動です。『あの時、何をしていた？』に答えられる活動をしましょ。」

全体会議と十一の分散会で約300人が発言しました。（一人5分間）
「合併で前教育長、前町長、前村長、助役、収入役がいっぱいいます。私も教育長でした。選挙で一票を争った人が、肩を並べて9条を守ろうとがんばっています。」（九条を守る阿賀野の会）
「有名でも肩書きがあるわけでもない。だからこそ、みんなで知恵をしばってやっています。」（松戸の会）

「仏法は、争い、殺生はしないと教えている。仏法の教えと憲法の思いは同じ。その思いを伝えなければ。」（九条を守る会・日田）
「登録弁護士は過半数まであと16人です。憲法の話をしてほしいと声がかかる。どこへでも出かけていきます。」（弁護士九条の会）

「蝋（イナゴ）」という文字を使ったら、天皇を侮辱したと特高警察に殴られた俳人もいた。俳句愛好家にもつと訴えていきます。」（俳句九条の会）

「戦前、国の方針に沿って資料収集させられ、それに反する資料は破棄され燃やされました。民主主義のとりで、図書館を守るためにがんばります。」（図書館九条の会）
「いつも集まる女性のおしゃべり会で、九条の話になり、わたしらもなんかしようか、その日に九条の会ができました。むつかしく考えないで、ファッションや食べ物のお話をするように九条のお話をできた。」（九条の会豊中一番星）

「自衛隊の基地のある町。3分の一が自衛隊関係。署名運動をしていると、行ったり来たりして迷っている様子。決心して署名をしました。自衛隊員でした。」（恵庭九条の会）
「人として、医療関係で働く者として、青年として9条を守ること全力で取り組んでいます。いきなり憲法とか九条といってもわかってもらえない。若い母親には『子どもの命を守る』と話をしていくことが大事。」（精神医学研究所で働く青年職員でつくる『青年九条の会』）

「戦争を知らない私たちが平和を引き継ぎたい。」
「九条の会」は、二年間で五一七四、一日平均七つできたことになりました。
「結び合い、知恵を出し合い」澤地さんの言葉を胸に、帰路に着きました。新幹線の中で、ニュースのテロップで「九条の会」の全国交流会が開かれたことを報じていました。（T・A）

「九条の会・きしわだ」 一周年記念のつどい

参加者の声②

○この会を発足して頂き一年経ちましたが、その間いろいろな行事や企画をして下さり感謝しています。戦争の出来る国にしたいと為政者をはじめ同じ考えを持つ人達は、その方向に引っ張って行っています。それにまんまと国民がだまされてついでに行こうとしています。大変危険です。九条の歯止めがなくなれば平和は総崩れ、戦争をしたい人、戦争で儲かる人は勢いづくでしょう。そして戦争になること必定です。少しでも九条をいじるとだめです。チョット変えて大きく変えるのです。どうか心を合わせて聞いませう。これからもよろしくお願ひします。

○私は戦後生まれですが、亡くなった母から話聞いています。小さい頃、家には戦争のなごりの品々が有ったのをおぼえています。皆それぞれに死にものぐるいで苦しったはずですが、そんな時代にもどる事を誰ひとり望んでなんかいません。

○産業高校のみなさんの演奏はとても上手でした。すばらしい演奏をするために苦勞もあつたと思います。でも、こつこつと努力したことはいずれ社会にでた時に役立つことがきつ

とあるはずですが、これからはすばらしい演奏をつづけてほしいと思えます。岸和田弁によるは、以前にも拝聴させていただきました。いつ聴かせてもらっていいですネ。笑っちゃうけど、そう！そうやねん！って素直に心にひびきます。郡山さんのお話は、子ども達や親の姿が印象的でした。やはり戦争は悲しみやくしみしか生まれません。今は『時代が』『時代が』『時代が』と言います。では、その時代を誰が作ったのか、

大人が道をあやまれば、子どもが悲しむことを絶対にはたさないと思いたいです。いつも会場設定など、お疲れさまです。これから九条を守るためにがんばっていきましょ。



事務局から

署名の呼びかけに答えていただき感謝しています。電話で場所を確認してから届けていただいた方、郵便で送っていただいた方、郵金と署名を届けていただいた方、ファックスで送っていただいた方など本当にありがとうございます。13日、「憲法・教育基本法を守り、生かす岸和田共同センター」が発足しました。14日には、岸和田の全ての駅で、教育基本法改悪反対の宣伝・署名行動に取組みました。「九条の会・きしわだ」も協力していきたいと思っています。

賛同者は、2000名、「9条を守ってください」署名は、4909筆になりました（6月14日現在）。